



大宮小だより

R4年12月9日 No.12

発行 阪井宏行

～自ら学び、心豊かで、しなやかに生きる子どもの育成～

12/7 大紀町防災の日 ～避難訓練を実施～

12月7日は大紀町の条例で「防災の日」と定められています。これは、今から78年前の昭和19年(1944年)12月7日、13時40分に発生した東南海地震の被害を教訓に防災の意識を高め、万一の災害に備えるために制定されたものです。

この地震はマグニチュード8クラスで、広い範囲で震度6前後の揺れがありました。東海地方を中心に、1,200人を超える死者・行方不明者を出し、錦地区では6mを超える津波により、447戸が全壊、64名の方が亡くなっています。

大宮小学校では、毎月、避難訓練を実施していますが、12月はこの日に訓練日を合わせ、学級での防災学習を並行して行いました。また、給食も非常食メニュー(レトルトカレー)とし、防災意識を高める日としました。

訓練後の講話で、「今日は家に帰ったら、家族で防災についての話をしてください。」と子ども達に話をしました。学校でどんな防災学習をしているのか聞いてもらっても構いませんし、家庭の防災対策や防災備蓄を点検したり、家族の避難の仕方を確認したりしても構いません。いま一度、家族間でも防災意識を高める機会にしてください。

南海トラフに起因する大地震は、過去100～150年の周期で発生しており、今世紀前半での発生確率が高いと言われています。有名な物理学者であった寺田寅彦(1878～1935)の言葉に「天災は忘れた頃にやってくる。」という警句があります。自分や家族の大切な命を守るために日頃から意識したい言葉です。



11:50頃、校内放送で「緊急速報」が流れる。→机の下に入って身(頭部)を守る。→運動場に避難→集合・点呼。(人員確認)→講話。(この日は12時のサイレンに合わせて黙祷もしました。)

「防災ノート」を使った1年生の授業風景。

三重県独自の教材として「防災ノート」という冊子があります。小中9年間を通して、災害から自分の身を守る力を高めようとする目的で作られました。



12/14 ふたご座流星群 ～家族で夜空をながめてみよう！

毎年決まった時期にたくさんの流れ星が流れる日があります。それらを「流星群」と呼びます。特に「1月:しぶんぎ座流星群」「8月:ペルセウス座流星群」「12月:ふたご座流星群」は有名で、これらを三大流星群と呼びます。普段の日でも流れ星は流れますが、この特別な日は1時間に大小ふくめて50個の流れ星が観測できることもあります。それぞれに、星座の名前がついているのは、その星座を中心にして四方八方に流れ星が流れるためです。その理由を解説すると少し長くなるので、今回はやめておきます。

さて、来週12月14日(水)の夜10時頃、「ふたご座流星群」がピークを迎えます。ピークと言うのは、一番多く流れる時間で、その前後、14日の夕方から15日の明け方までが観測のチャンスとなります。予想では、条件の良いところで、1時間に15～20個(3～4分に1個)くらい見えるという予想です。下記の観察ポイントを参考に時間があれば家族で観測してみてください。



- ① 一番大切なことは、「**暗い場所で見ると**」ということです。街灯の明かりが目に入らない場所を選びます。※明るい場所では暗く小さな流れ星が見えません。ですから見える数が半分から3分の1くらいに減ります。
- ② 月明かりが一番の大敵ですが、この日の**月の出は夜の10時頃**。月が出る前の、**7時頃～10時頃までが観測に適します**。
- ③ 数多く見たいなら「**空を広く見渡す**」ことが大切。流れ星は空のあちこちに流れます。一番いいのは「**地面に敷物を置いて、寝転んで見る**」または「**リクライニングチェア**を利用して**寝転ぶに近い姿勢**で見る」・・・立って首を上に向ける見方は、すぐに首が痛くなるし、空の一方向しか見えないので、見える数が激減します。
- ④ **15分くらいは見続けてみよう**。・・・計算では3分に1個、でも実際の流れ方はランダム。続けて3個流れることもあるし、10分以上も何も見えないこともあります。あきらめずに15分くらいは見続けることも大切です。そのためには、寝転んだ姿勢が必要です。
- ⑤ 最後に、**安全面**です。まず、**必ず保護者付き添いのもと安全に留意し観測**してください。次に、**寒い時期の観測**になります。体調を崩してはいけませんから、**暖かい服装や毛布等を準備**して、万全の態勢で観測してください。

★運が良ければ火球かきゅうが見えることも・・・驚くほど明るい流星。隕石となって地面に落ちることもある。